

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援ルームマオポポ		
○保護者評価実施期間	令和7年3月10日		～ 令和7年3月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	令和7年3月17日		～ 令和7年3月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	構造化(空間の構造化、時間の構造化、活動の構造化)を意識した支援を行っていること。また、育ちの場であるマオポポでの構造化を、暮らしの場である家庭でも取り入れてもらえるように、保護者の方と情報共有していること。	9時半から14時半まで、長時間マオポポで過ごす子どもたちが、安心感を持って主体的に行動できるよう、子どもたち一人ひとりの特性に配慮しながら、周囲の環境や情報を整理しやすいように構造化を心がけています。 やり方をルール化するのではなく、スタッフ全員がTEACCHプログラムについて学びながら構造化についての理解を深め、目の前の子どもや状況に対して、どのように構造化するのがよいか、スタッフ間で話し合いながら最善の方法を考えています。	次年度は活動を充実させていくと共に、それぞれの子どもに合った活動の構造化を進めていきたいです。よこはま発達クリニック・相談室のコンサルテーションも受けながら、スタッフの支援力を高めていきます。 限られた空間を多目的に使用する必要があるため、常設できるコーナーは限られますが、次年度は子どもたちがいつでもクールダウンしたり休憩したりできる空間を常設したいと考えています。
2	利用児の家族に対する手厚い家族支援を行っていること。テーマを設けて毎月ペアトレを実施していること。ペアトレが保護者同士の情報交換の機会にもなっていること。	発達支援は事業所だけで進めていけるものでなく、家庭との連携が大切であると考え、日常にお子さんのご家庭での様子を聞きながら、事業所での支援にも活かしています。 毎月開催しているペアトレは「痲痺について」「食について」「睡眠について」「就学に向けて」など毎回テーマを設けて実施したことで、同じ悩みを抱える保護者同士がつながり合う機会になったようでした。	次年度は、特定非営利活動法人kindness for allの方たちにご協力いただき、療育のスペシャリストの方々と一緒にペアトレを進めていく予定です。保護者だけでなく、スタッフも含めてみんなで学びあえる機会にしていきたいです。
3	子どもたちそれぞれが、安心して笑顔で通園できていること。保護者がスタッフを信頼して、安心して送り出してくださっていること。	まずは安心して通ってもらえるように、そのお子さんのことをありのまま、丸ごと受け止め、「楽しい」と思える経験の一つずつ積み重ねています。 また、ご家庭での様子を保護者にたくさん教えていただき、お子さんの強み(=ストレンクス)や好きなことに焦点を当てて支援を開始しています。	今年度から、「育児・発達支援室ここん」の作業療法士さんたちとスタッフが、毎月1回ケース検討を行っています。注意の持続が短く、楽しめる遊びがなかなか見つからないケースでも、「感覚統合」の視点から見ることによってその子にとっての「快」や「ストレンクス」を見つけれられたケースもありました。次年度はケース検討に参加できるスタッフの数が増やせるように工夫したり、研修を実施するなどして、「感覚統合」へのスタッフの関心を高め、より深い子ども理解につなげていきたいです。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流の機会が少なかったこと。地域で他の子どもと活動する機会について周知できていなかったこと。	保育園や幼稚園等を主な育ちの場として、マオポポには週1~2日程度通園のケースが多く、またマオポポに週3~4日通っていても週1~2日は地域の保育園・幼稚園等に通っているケースも多いこと、また曜日により子どもの顔ぶれが異なることもあり、子どもたちや相手方の園にかかる負荷も想像すると幼稚園・保育園等との交流の機会を作ることに難しさがありました。 一方、地域で他の子どもと活動する機会については、今年度もありましたが、保護者の方に意図を伝えきれていなかったと感じます。	幼稚園・保育園等との交流の機会については、マオポポを主な育ちの場としていて他に通所先がないお子さんについて個別に検討し、必要に応じて実施していきます。 地域の子どもたちと一緒に活動する機会については、毎月実施しているマオポポOPEN DAYや、年に1~2回実施のイベントがこれにあたると思います。丁寧に意図を説明した上で告知を行い、広く参加を募ります。 また日々の公園遊びの活動においても、地域の親子さんに丁寧にお声がけしてコミュニケーションを図り、子ども同士のやり取りを共に見守れる関係性を培っていきます。

2	<p>「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容についてスタッフからの説明がなかった時があったこと。</p>	<p>「児童発達支援計画」を作成した際には、送迎時にスタッフから説明して署名をいただくという流れで保護者にお渡ししていますが、送迎時には多くの保護者がいらっしやるためにスタッフが対応に追われ、適切に説明できなかったケースがあることが分かりました。</p> <p>また、毎週30分のファミリータイムを実施してご家族やお子さんについての相談をお受けしていますが、保護者によっては「もう少し踏み込んだ発達や特性についての見解」などを聞きたい等の感想もありました。</p>	<p>児童発達支援計画については、お子さんごとに計画書の作成担当スタッフを決め、他スタッフの意見も盛り込み複数名で検討しながら、児童発達支援管理責任者と作成します。</p> <p>支援計画をお渡しする際には、ファミリータイムを活用する、もしくは別に面談を設定するなど、時間に追われず落ち着いて情報交換できるよう、それぞれ担当スタッフが配慮して場の設定を行います。</p>
3	<p>非常時等の対応について、マニュアル作成を行っているものの、保護者やスタッフへの周知が不足していること。</p> <p>毎月、曜日を変えて避難訓練を実施しているが、保護者への周知が不足していること。</p> <p>非常災害の発生に備えての訓練は実施しているが、事故や犯罪に巻き込まれた際の訓練が実施できていないこと。</p>	<p>作成済みのマニュアルは、ドライブに保存されておりスタッフが見れる状況ではあるものの、目を通すにとどまり、内容の吟味や検討には至っていない状況です。また利用者さんへの周知が不足している状況であることが分かりました。</p> <p>非常災害の発生に備えての訓練は実施しているが、事故や犯罪に巻き込まれた際の訓練が実施できていないこと。</p>	<p>まずはスタッフMTGでマニュアルの読み合わせを行います。</p> <p>マニュアルを保護者にどの状態で共有するのがよいか（紙媒体？デジタル？）、保護者にもヒアリングして検討、決定します。</p> <p>事故や犯罪に巻き込まれた際の訓練についても、可能な範囲で実施を検討します。</p>